

人口ビジョン 将来人口の設定

【人口の将来見通し】

1. このままでは津島市の人口は加速度的に減少する。

- 国立社会保障人口問題研究所の推計によれば、津島市の人口は平成 42 年（2030 年）に 58,239 人、平成 52 年（2040 年）に 52,966 人となる。
- さらに平成 62 年（2050 年）になると、5 万人を下回ると予想されている。

2. 出生率が改善されないと、年少人口は平成 42 年（2030 年）までに 2,400 人、平成 52 年（2040 年）までに 3,000 人減少する。

- 年少人口は平成 27 年（2015 年）の 8,282 人が平成 42 年（2030 年）には 5,876 人（▲2,406 人）となる。
- 平成 52 年（2040 年）には 5,221 人（▲3,061 人）となる。
- 1 学年複数学級を維持できない学校が増加する。

【人口減少の要因】

1. 自然動態（自然減）

- 20 歳代を中心に、40 歳代前半までの女性が社会移動により減少し、その結果出産数も減少している。
 - ⇒結婚や住み替えを理由に、愛西市などの近接市町に転出している人が多い。
 - ⇒津島市の子育て環境に対するマイナスイメージが要因の一つになっている。
- 希望する子どもの数だけ出産していない人が多い。
 - ⇒経済的な負担と肉体的・精神的な負担を不安に感じている。
 - ⇒津島市は愛西市と並んで、人口一人当たりの家計所得が周辺都市に比べて低い。
- 未婚率が上昇。特に、30 歳～40 歳代の男性の単独世帯が急増している。
 - ⇒未婚の理由は、「適当な相手に巡り会わない」と「経済的不安がある」が主な理由となっている。特に男性は「経済的不安がある」が大きくなっている。

2. 社会動態（社会減）

- 隣接都市との間で転出超過となっている。
- 中でも、愛西市との間で転出超過が突出して大きくなっている。

【人口減少対策の可能性】

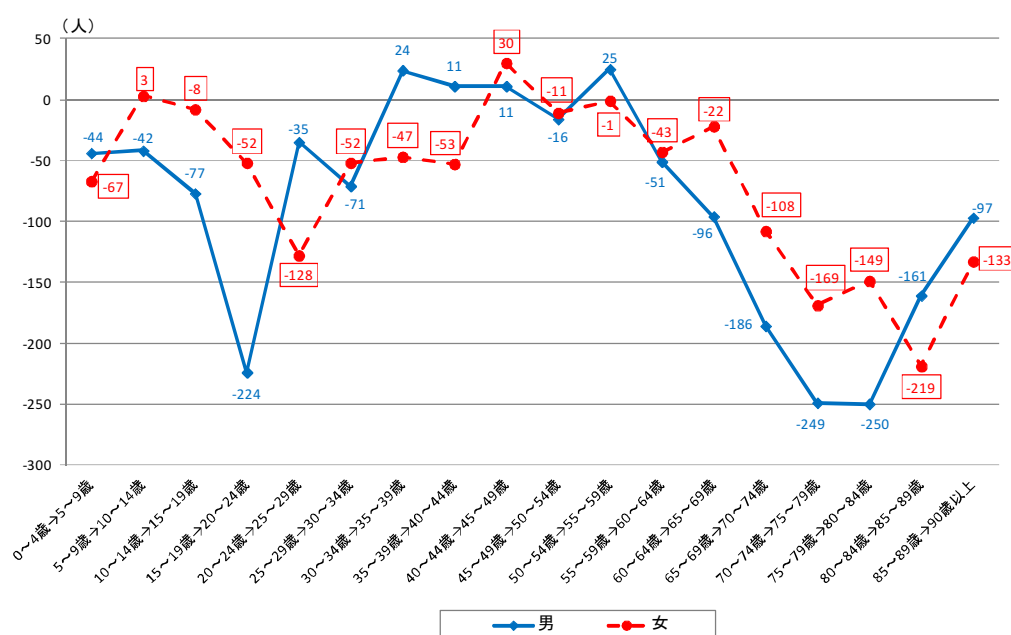
1. 社会移動率の改善

- 子育て環境の魅力を高め、女性の転出が抑制されれば、隣接都市との間の転出超過を減らし、マイナスの社会移動率の改善が見込まれる。

2. 女性の転出抑制による出生率のアップ

- 津島市内で子育てしたくなる環境づくりを進めることにより、30 歳代前半の女性を中心に出生率の高い年代の女性の転出を抑制させ、出生率の上昇が見込まれる。

【男女別年齢階級別人口の増減数（平成 17 年⇒平成 22 年）】



【人口ビジョンの目標】

転出超過となっている 20~30 歳代の若い女性の転出を重点的に抑制することにより、社会移動率のマイナスの解消を目指すとともに、出生数を増やし、出生率のアップを目指します。

【人口の将来展望】

将来の人口を次のように設定します。

■純社会移動率

○現在マイナスとなっている移動率を半減にし、平成 42 年（2030 年）以降にはマイナスを 0 とする。

■合計特殊出生率の目標

○平成 22 年（2010 年）の 1.38 から、平成 42 年（2030 年）には 1.80、平成 52 年（2040 年）には 2.07 を目標とする。

《グラフの見方》

◆コーホート要因法により、以下の 3 パターンを表記。

- ①「パターン 1」は、国立社会保障人口問題研究所の推計に準拠したもの。
- ②「パターン 2」は、合計特殊出生率を 2010 年の 1.38 から、2030 年までに 1.80、2040 年までに 2.07 に高まるように設定し、純移動率は国立社会保障人口問題研究所の推計に準拠したもの。
- ③「パターン 3」は、合計特殊出生率をパターン 2 と同様とし、さらに、純移動率については国立社会保障人口問題研究所の推計したものをベースに「0~4 歳」~「70~74 歳」について 2020 年~2040 年は純移動率のマイナス分を半減に、2040 年以降はマイナス分を 0 として算出した。

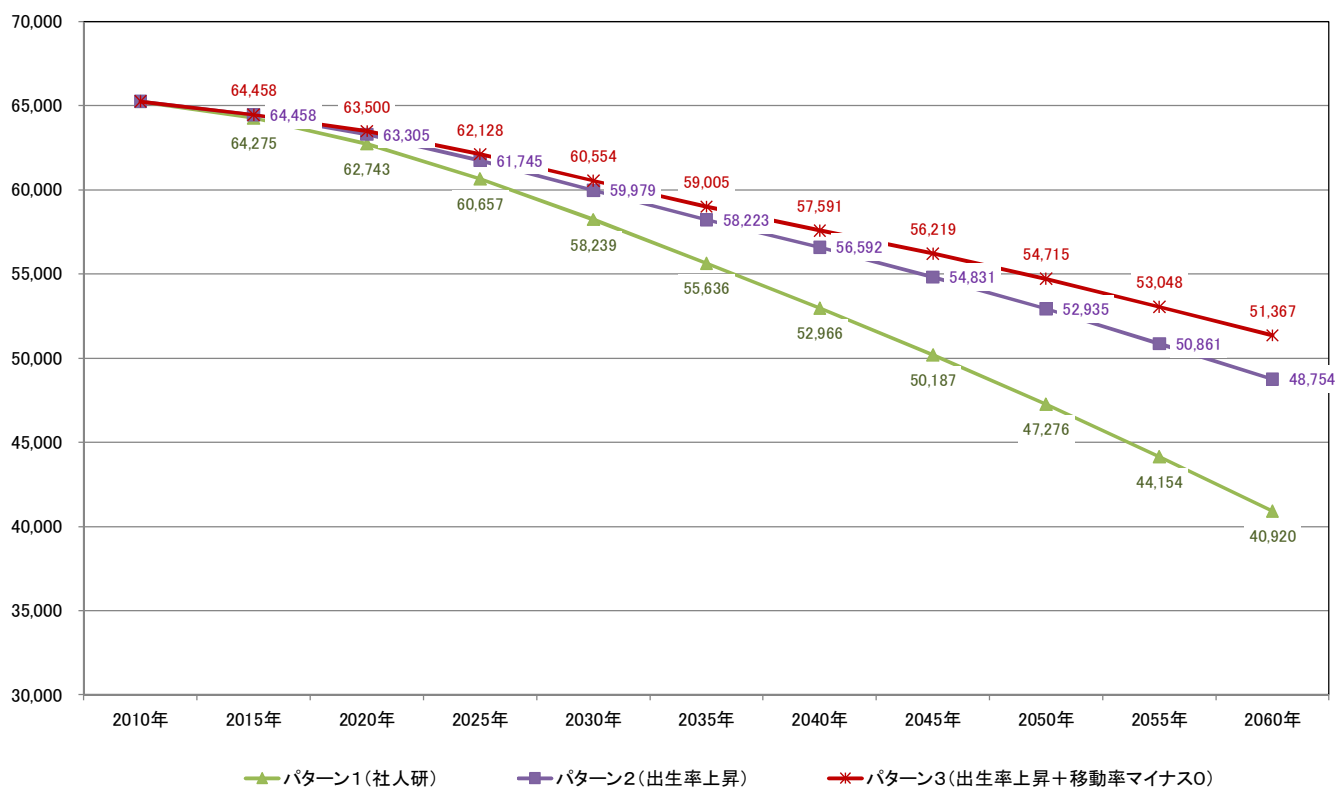
〔合計特殊出生率〕

年	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
パターン1		1.3849	1.3542	1.3289	1.3310	1.3341	1.3347	1.3347	1.3347	1.3347	1.3347
パターン2	1.3800	1.4850	1.5900	1.6950	1.8000	1.9350	2.0700	2.0700	2.0700	2.0700	2.0700
パターン3	1.3800	1.4850	1.5900	1.6950	1.8000	1.9350	2.0700	2.0700	2.0700	2.0700	2.0700

《シミュレーション結果》

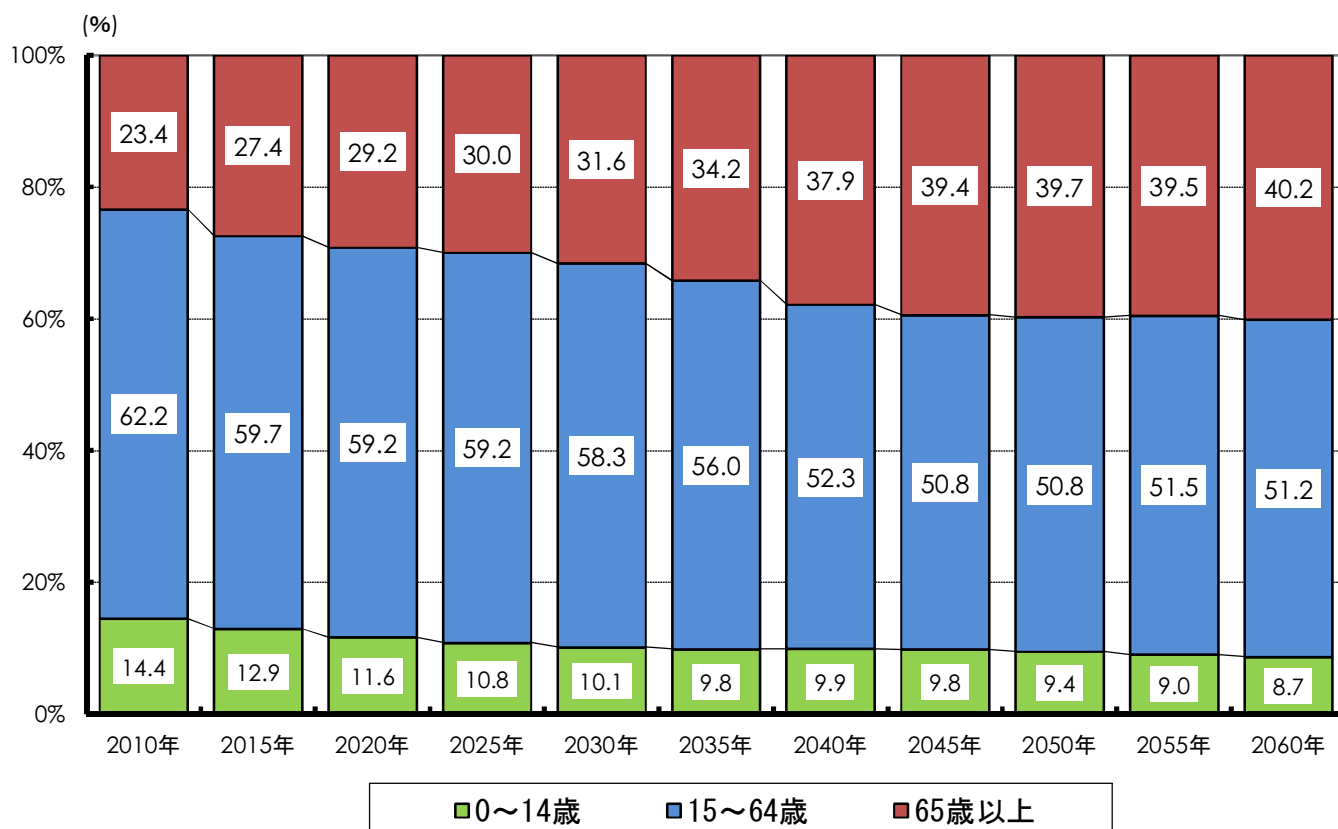
年	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
パターン1	65,259	64,275	62,743	60,657	58,239	55,636	52,966	50,187	47,276	44,154	40,920
パターン2	65,259	64,458	63,305	61,745	59,979	58,223	56,592	54,831	52,935	50,861	48,754
パターン3	65,259	64,458	63,500	62,128	60,554	59,005	57,591	56,219	54,715	53,048	51,367

将来人口(目標)



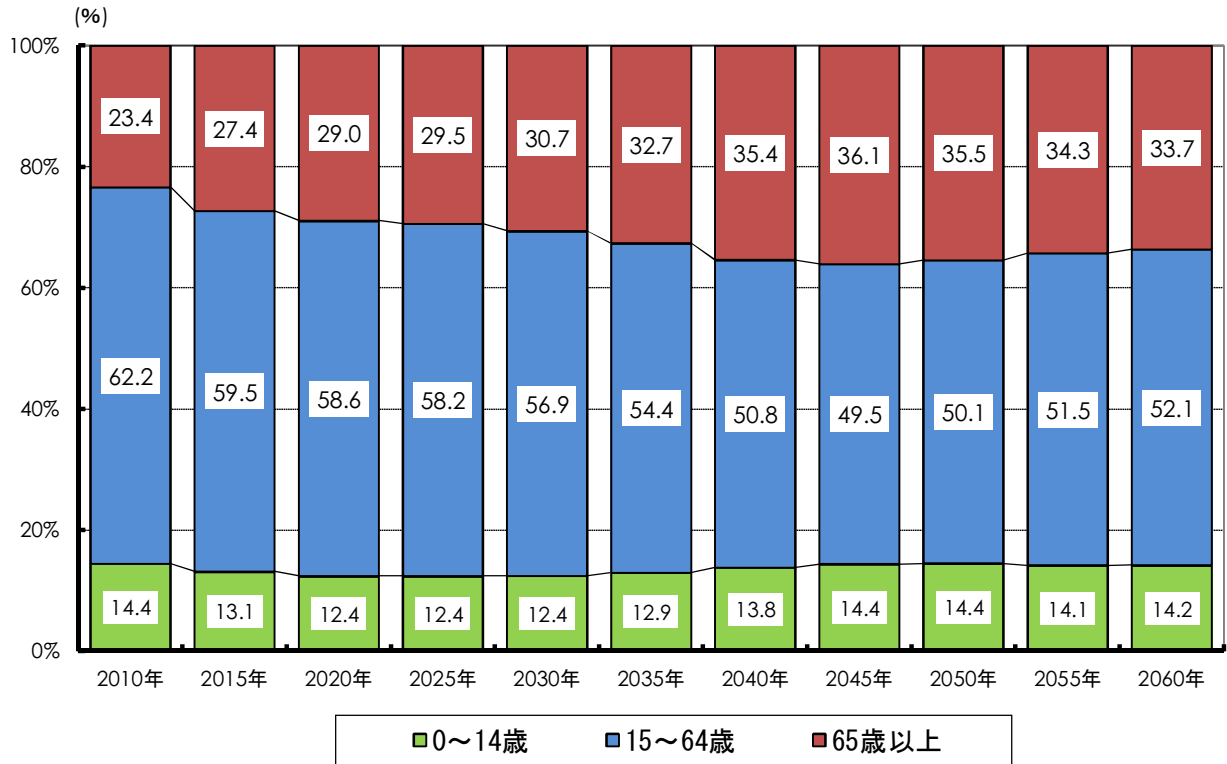
■パターン1の年齢3区分別人口比率

パターン1	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	9,411	8,282	7,285	6,548	5,876	5,473	5,221	4,900	4,459	3,967	3,549
15～64歳	40,570	38,360	37,121	35,922	33,966	31,130	27,696	25,502	24,030	22,735	20,934
65歳以上	15,278	17,633	18,338	18,188	18,397	19,033	20,049	19,786	18,788	17,451	16,437
計	65,259	64,275	62,743	60,657	58,239	55,636	52,966	50,187	47,276	44,154	40,920



■パターン2の年齢3区分別人口比率

パターン2	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	9,411	8,465	7,847	7,635	7,442	7,525	7,809	7,881	7,639	7,196	6,917
15～64歳	40,570	38,360	37,121	35,922	34,141	31,665	28,733	27,165	26,508	26,214	25,400
65歳以上	15,278	17,633	18,338	18,188	18,397	19,033	20,049	19,786	18,788	17,451	16,437
計	65,259	64,458	63,305	61,745	59,979	58,223	56,592	54,831	52,935	50,861	48,754



■パターン3の年齢3区分別人口比率

パターン3	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0～14歳	9,411	8,465	7,904	7,747	7,590	7,740	8,119	8,334	8,203	7,819	7,619
15～64歳	40,570	38,360	37,248	36,171	34,536	32,208	29,428	28,109	27,742	27,802	27,332
65歳以上	15,278	17,633	18,348	18,210	18,428	19,078	20,107	19,877	18,911	17,612	16,651
計	65,259	64,458	63,500	62,128	60,554	59,005	57,591	56,219	54,715	53,048	51,367

